

令和6年度公益財団法人静岡県文化財団事業報告

I 総括

令和6年度は、令和5年度に改定した静岡県文化財団中期構想を具体化していく最初の年度として、静岡県の文化政策の具現化を実行する組織としての役割を果たすため、以下の事業に取り組んだ。

グランシップ企画事業を始めとする文化事業においては、改定中期構想の重点的取組である「未来を担う子どもたちのために」「あらゆる世代の多様なニーズに応える」「集いと創造の拠点」「伝統芸能の継承と発展」を柱に、これまで取り組んできた事業に加えて、静岡県ならではの要素を取り入れた事業や、文化団体等との協働事業を実施した。計画目標を超える来場・参加者があり、県民が多彩な文化芸術に触れられる環境づくりを進めた。また、テレビ番組のレギュラーコーナーの枠を押さえ、グランシップ企画事業だけでなく、財団の教育普及活動等を定期的・継続的に広報し、幅広い財団活動の周知を図った。

アーツカウンシルしずおかにおいては、県民全てが芸術文化活動の当事者となることを目指して支援したことで、県民主体のアートプロジェクトが増加してきており、プロジェクト間のネットワーク化を促進することができた。

また、アーティスト、アートディレクター、クリエイター等の地域のクリエイティブ人材とNPO法人、行政、企業等の連携を進めた結果、具体的な成功事例がいくつも誕生してきた。

さらに、事業成果、調査研究活動の結果を総合することにより、政策提言へと結実しつつある。

グランシップの施設利用に関しては、令和5年度に県がグランシップに整備した高速通信回線を活用する等、施設の強みを活かし、大型コンベンションの誘致を図り、国内外との交流の拠点としての役割を果たした。また、映画やミュージックビデオの撮影といった新しい施設利用の誘致を推進した。

加えて、グランシップ広場の活用等により東静岡地区全体の賑わい創出に取り組んだ。

財団運営については、財務体質の強化を図ることで、令和5年度から2年連続で単年度会計を黒字とすることができた。また、専門家集団にふさわしい人材の育成と確保を推進し、人材確保については新規職員募集を民間企業と同時期に早めて実施し、定員の20倍以上の応募があった。

II 事業概要

(1) 文化芸術の振興

諸物価の高騰や個々のニーズの多様化・細分化といった周辺環境の変化を意識しながら、文化芸術の本質的価値や財団が果たすべき役割を踏まえ、グランシップ企画事業を中心に、県受託事業や財団独自事業に積極的に取り組んだ。

「未来を担う子どもたちのために」「あらゆる世代の多様なニーズに応える」「集いと創造の拠点」「伝統芸能の継承と発展」の4つの項目と、「心を豊かにする多彩な鑑賞」「関心・理解・親しみを深める教育普及」「誰もが主人公となる県民参加」の3つの事業形態により構成した46事業、人材育成事業2事業及び県委託事業1事業の49事業を実施し、83,000人の入場計画に対し、108,261人の入場があった。

また、アーツカウンシルしずおかにおいては、県民すべてが表現者となることを目指し、これまで蓄積した経験とノウハウを活用しながら、創造的な活動への支援事業の強化、新分野でのパイロット事業の深堀り、人材育成・ネットワーク化事業等に取り組み、文化を取り巻く人々のプラットフォームとして地域の文化を支援した。

【中期構想項目別の内訳】

項目	事業本数(本)	入場者数(人)
未来を担う子どもたちのために	20	30,943
あらゆる世代の多様なニーズに応える	19	17,975
集いと創造の拠点	3	56,621
伝統芸能の継承と発展	4	2,435
合計	46	107,974

【事業形態別の内訳】

項目	事業本数(本)	入場者数(人)
心を豊かにする多彩な鑑賞	20	16,102
関心・理解・親しみを深める教育普及	17	8,024
誰もが主人公となる県民参加	9	83,848
合計	46	107,974

人材育成事業：2事業、287人（詳細後述） 計：108,261人

① 文化芸術との幸せな出会いの提供による寛容な社会の形成

未就学児から大学生まで、年齢・成長に応じたプログラムや鑑賞支援策を実施したほか、幅広いジャンルの公演事業を開催し、全ての県民が多彩な文化芸術に触れられる環境づくりを目指した。

ア 未来を担う子どもたちのために

グランシップを舞台に親子・家族で楽しめるイベント、継続して実施したアウトリーチ事業や鑑賞支援事業、新たに開始した「こどもたちのための文化芸術プロジェクト」等により、静岡県で育つ子どもたちが環境に左右されずに文化芸術を体験する機会を提供した。

(ア) 年齢・成長段階に応じた事業、子ども・学生への鑑賞支援の実施（文化事業課）

- ・ゴールデンウィークに「グランシップ・スプリングフェスティバル」として「グランシップ食彩フェスティバル」と同時開催した「グランシップこどものくに」、夏休み期間の「世界のこども音楽劇場」、冬のイベントシーズンの「冬のおくりもの 2024『キノ・イグルーの不思議の国のえいがかん』」と、年間を通して親子で楽しめるイベントを開催した。参加者からは「子どもたちが楽しそうだった」「子どもがこんなにも目をキラキラさせるのかと驚いた」等の声があり、子どもの感性を育む場、親子・家族のコミュニケーションを深める場を提供した。
- ・子どもたちが生活環境に左右されることなく、日常では触れることのない世界を経験し、想像力を養うことを目指して実施した「グランシップこどもアート体験！」（アウトリーチ事業）は東部・中部各7カ所、西部4カ所で開催、県内19の学校が参加した。実施校の教員からは「子どもたちが笑顔で聞き入っている様子が普段の音楽の授業とは違っていた」「こういった鑑賞会に行ける子ばかりではないので素晴らしい音楽に触れる機会を作る意味で良かった」（登録アーティストコンサート）等の意見を得た。
- ・昨年度に引き続き実施した「国立劇場歌舞伎鑑賞教室」、「中高生のためのオーケストラ」、学校・部活単位等での劇場体験を促進する「中高生鑑賞プラン・交通費支援」制度、原則1,000円の「こども・学生チケット（座席指定可）」、県内全高校生を対象に県内の文化ホールの公演情報を提供し、観劇ごとにポイントが貯まる「高校生アートラリー」はそれぞれ以下の利用があった。

【国立劇場歌舞伎鑑賞教室・中高生のためのオーケストラ】

事業	参加校数	参加人数	交通費支援	
国立劇場歌舞伎鑑賞教室	9校	1,471人	8校	2,557,220円
中高生のためのオーケストラ	14校	2,536人	12校	4,630,710円

【中高生鑑賞プラン・交通費支援制度】

項目	参加校数	公演数	実績	
中高生鑑賞プラン	10校	6公演	参加人数	195名
交通費支援	7校	5公演	支援額	507,630円

【こども・学生チケット】

実施事業・公演	利用
21事業25公演	1,628人

【高校生アートラリー】

参加文化施設	ポイント対象公演数	利用状況
6施設	48公演	LINE登録者443人 ファミリーチケット利用1件

- ・歌舞伎鑑賞教室と「中高生のためのオーケストラ」の募集を同時に行うことで、前年度に歌舞伎鑑賞教室に参加した学校が令和6年度は「中高生のためのオーケストラ」に参加するといった好循環の流れができた。
- ・「中高生のためのオーケストラ」は「名曲コンサート」と同じく磐田市民文化会館「かたりあ」で開催したが、終演後、参加した学生から「とても良かった」と声掛けがあり、出演者の熱のこもった演奏が学生の心に響く公演となった。
- ・「こども・学生チケット」は令和5年度の利用数（1,016人）を大幅に超え、若い世代のグランシップへの来場を促進した。
- ・未来を担う子どもたちへの鑑賞支援事業を将来にわたり継続していくために令和6年度より開始した「こどもたちのための文化芸術プロジェクト」では、県内企業5社から協力を頂いた。また、同プロジェクトの一環として、新たに静岡県ひとり親福祉連合会と連携し、県内のひとり親家庭を公演に招待。18事業 22公演で招待を実施し、180家庭・424名の申込み、222名の来場があった。静岡市内だけではなく、県東部や西部地域からも申込みがあり、広く県民がグランシップに足を運ぶきっかけにもなった。

(イ) 県委託事業の実施（文化事業課）

財団が文化支援事業やグランシップ企画事業で培ってきたノウハウを活かして、県委託事業である「子どもが文化と出会う機会創出事業」の実施事務局を継続して担った。

種別	開催回数	鑑賞者数	期間
地域訪問プログラム (県内プロオーケストラによる 学校訪問コンサート)	17公演 (参加校 23校)	4,870人	令和6年6月 ～ 令和7年1月
未就学児対象コンサート (県内ホール等で開催する未就学 児対象の無料コンサート)	3公演	1,561人	

イ あらゆる世代の多様なニーズに応える

次世代のグランシップファンの獲得、県民ニーズを意識した19事業を実施した。

クラシックやジャズの音楽公演をはじめとした鑑賞事業、県民参加事業、教育普及事業である公演への理解を深める事前レクチャーなど、多様なジャンル・形態の文化芸術の提供に取り組んだ。グランシップに気軽に足を運ぶことで、誰もが何らかの情報や感動を得られ、共に参加することができる環境づくりを進めた。

(ア) 静岡ゆかりのアーティストの起用（文化事業課）

- ・浜松市出身のピアニスト・仲道郁代がソリストとして出演した「東京フィルハーモニー交響楽団名曲コンサート」は、出前公演として磐田市文化振興会と共催で磐田市民文化会館「かたりあ」で開催した。満席に近い来場者となり、アンケートでも高い満足度を得た。

- ・令和6年度に初めて開催したジャズロックライブ「静岡 JAM2025」では、磐田市出身のキーボーディスト ADAM at を中心に3バンドが出演した。来場者数は計画目標に達しなかったが、アンケートでは静岡市外からの来場が7割を超えた。(県内40%、県外32%)

(イ) 新たな客層への訴求 (文化事業課)

著名俳優が出演した演劇「メディスン」は2日公演のいずれも完売し、ゲーム音楽を吹奏楽で楽しむ「GAME MUSIC on BRASS in Granship」は追加販売を行うなど、これまで実施してこなかったジャンルの公演で多くの来場者があり、後者のアンケートではグランシップの音楽公演への初来場率が8割を超え、新たなニーズを有する客層を開拓することができた。

(ウ) 県民との協働事業の実施 (文化事業課)

県内で音楽活動を行う団体と協働で開催する「グランシップ ビッグ・バンド・ジャズ・フェスティバル2024」は過去最多となる14バンドが出演した。出演バンドの協力による子ども楽器体験コーナーも実施し、県民の活躍の場と、酷暑の中快適な環境で音楽を楽しめる場を同時に提供した。

「誰もが Wonderful アート」では、静岡市在住の美術家鈴木まさこ氏の展覧会と県内特別支援学校の生徒による作品展を開催した。期間中に開催したワークショップ「どうぶつぬりえ」には子どもだけでなく大人の参加もあり、計画目標を超える3,430名の来場があった。

(エ) 期待に応える鑑賞機会の提供 (文化事業課)

国内最高峰のオーケストラであるNHK交響楽団によるコンサートや、国内外の第一線で活躍する2人の奏者による「宮田大×福間洸太郎 デュオ・コンサート」といった、人気・実力を兼ね備えた出演者による公演に加えて、長年の取組が定着している「しずおか連詩の会」「人形浄瑠璃文楽」など、県民の期待に応える、幅広いジャンルの公演を実施した。

ウ 集いと創造の拠点

(ア) 集いと発信の拠点 (各課共通)

- ・日本最大級の鉄道模型イベントであり、鉄道愛好者だけでなく家族皆で楽しめる「グランシップトレインフェスタ」には、全国で活動する鉄道愛好団体30団体が参加した。27,000人を超える来場者があり、プラモデルの国内出荷額1位で聖地とも言われる静岡県が誇る模型文化を県内外の人々に発信することができた。

また、「しずおか型ガストロノミーツーリズム」の魅力・認知度を高めるイベントである「グランシップ食彩フェスティバル」を「グランシップ・スプリングフェスティバル」として「グランシップこどものくに」と同時開催し、あらゆる世代がグランシップに集い、楽しむことで、グランシップが共に生きる絆を形成するための文化拠点を

となる役割を担った。

- ・アートプロジェクト^(※)に係る広く一般に向けたフォーラム、セミナー及び講座等を開催することで、人々の創造性や潜在的な課題意識に働きかけ、住民主体の創造的取組の担い手および担い手を目指す人材の育成につなげた。

(※) 社会の様々な分野の担い手による地域資源の活用や、社会課題に対応した創造的な取組

- ・「ふじのくに芸術祭」の開催やグランシップの施設利用を促進することにより、鑑賞機会の提供のみならず、参加者が主体的に学術・文化芸術を創造、発信できる機会を多く提供し、人々の心豊かな県民生活の実現に寄与した。

(イ) 効果的な広報（各課共通）

- ・グランシップが実施する公演・イベントに多くの県民が来場することで、人々が多彩な文化芸術に触れ、心豊かな生活を実現できるようにするため、公演内容や届ける地域、世代等のターゲットに合った広報媒体を複合的に活用した。
- ・テレビ番組のレギュラーコーナーの枠を押さえ、グランシップ企画事業だけでなく、教育普及活動等も定期的・継続的に広報し、幅広い財団活動の周知を図った。
- ・財団ウェブサイトにおいて、グランシップ及びアーツカウンシルの専用サイトと連携して、静岡県の文化芸術の魅力、財団活動、役割に関して積極的に発信した。
- ・様々なジャンルの公演を楽しむためのメンバーシップ制度である無料の友の会制度を継続して実施し、グランシップファンの拡大を図った。

○ 個人会員

企画事業への来場者確保のため、会員への催事情報の提供やチケット販売などを行った。また、会員向けの広報誌、チラシ等催事情報郵送の必要の有無を継続して調査し、紙媒体での情報提供をWEBに置き換えることで、環境負荷の低減と経費節減につなげた。

○ 法人会員

新規会員の増加、既存会員との関係強化に向け、法人会員特典の見直しを検討した。

- ・各事業はPDCAの視点で、それぞれの部署や事業内容に応じて評価制度を設け、アンケート調査やモニター会議、利用者会議などを実施して様々な角度からの意見や評価を取り入れ、事業の成果を的確に把握するよう努めた。

エ 伝統芸能の継承と発展（文化事業課）

- ・伝統芸能への理解を深めることで自身のルーツや過去から受け継がれてきた価値観を認識し、次世代へ継承するため、ユネスコ世界無形文化遺産である「能楽」に加えて「歌舞伎」「人形浄瑠璃文楽」の鑑賞、教育普及事業を実施した。また静岡の要素を取り入れた事業として「グランシップ寄席」を実施した。
- ・「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」「能楽入門公演」「人形浄瑠璃文楽」公演を引き続き解説付きで実施したほか、「グランシップ静岡能」では、多言語字幕サポートサービスである「能サポ」を取り入れ、県内在住の外国人や聴覚障害の方を招待した。実際の使用状況もヒアリングし、多様性に配慮した取組の第一歩とした。

- ・熱海市出身の落語家入船亭扇遊、三遊亭兼好による「グランシップ寄席」は完売となり、高い満足度を得た。
- ・小中学校において実施する「グランシップこどもアート体験！」（アウトリーチ）では、文楽や狂言に加えて、講談、浪曲を実施した。「いつもはやや集中力に欠ける子どもたちが非常に熱心に見入っていた」（狂言ワークショップ）等の意見があった。また、出演者からその道を志したきっかけを子どもたちに披露してもらおうといったキャリア教育としての要素を取り入れ、実演を鑑賞するだけにとどまらないアウトリーチ事業を展開した。
- ・県内の大学と連携した「伝統芸能普及プログラム」では、歌舞伎、文楽、講談、浪曲のプログラムを行った。参加者が体験を交えながら演者と直接交流する機会を創出し、長い歴史のある伝統芸能に触れることで、自分たちのルーツやアイデンティティを理解する一助とした。

② 文化を取り巻く人々のプラットフォームとして地域の文化を支援

「アーツカウンシルしずおか」は、令和3年の創設から4年間、すべての県民をつくり手として、誰もが有する創造力が活かされる道をひらき、まちづくりや観光、福祉、教育など社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに貢献するため活動を続けている。さらに、アーティストの活動機会の拡大や、住民プロデューサーの掘り起こしを、アートプロジェクトの未助成地域でも推進した。

また、文化の担い手を育成するため、グランシップ登録アーティスト制度を継続するとともに、グランシップの事業運営に誰でも参加・参画できるよう、サポーター制度の見直しを行った。

ア 社会の多様な担い手による創造的活動の支援

創造的な地域づくりに向けて、社会の様々な分野の担い手による地域資源の活用や、社会課題に対応した創造的な取組であるアートプロジェクトを支援する助成制度を運用した。

特に、文化芸術と社会をつなぐアートマネジメントの専門的人材であるプログラム・ディレクター、プログラム・コーディネーター等の専門職員が、助成事業に対する助言等を行い、プロジェクトを支援した。併せて他分野との連携等を推進した。

また、グランシップ登録アーティスト制度、公立文化施設職員等に向けた人材養成事業である「地域×アート マネジメントセミナー」、グランシップサポーター事業を実施した。

(ア) 文化芸術による地域振興プログラム（アーツカウンシル課）

静岡県内に拠点を置くアートプロジェクトの支援では、団体の目標に応じて先駆的事业を行うプログラムである「地域クリエイティブ支援」、先駆的事业の実施に向けて試行的に取り組む「地域はじまり支援」の2つのカテゴリを活用し、計 29 団体を支援した。

【地域クリエイティブ支援（助成金額上限 5,000 千円）： 16 件】

実施団体	所在地	プログラム名称
特定認定非営利法人クリエイティブサポートレッツ	浜松市	異文化交流「凸凹まつり」～共同制作で繋がる新しいコミュニティ～
かけがわ茶エンナーレ実行委員会	掛川市	かけがわ茶エンナーレ 2024
海と山の文化市実行委員会	牧之原市	牧之原盆フェス開催！～牧之原ゴミット 2024～
藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会	藤枝市	藤枝ノ演劇祭 4
竹部	藤枝市	竹林劇場プロジェクト「交差するヒト、モノ、コト」
一般社団法人トリナス	焼津市	静岡わかもの新聞 アートを通じたこども・若者の社会表現と発信プロジェクト
富士の山ビエンナーレ実行委員会	富士市	富士の山ビエンナーレ 2024 in エキキタ
吉原中央カルチャーセンター	富士市	HELLO YOSHIWARA 2024～吉原商店街の記憶を演じよう～
NPO 法人こころのまま	沼津市	心のままアートプロジェクト
しゃぎりフェスティバル実行委員会	三島市	地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト
Lab Qrio	三島市	三島広小路笑栄通り商店街アートサイクルの試み
三島アートプロジェクト実行委員会	三島市	三島満願芸術祭 2024
一般社団法人熱海怪獣映画祭	熱海市	第 7 回熱海怪獣映画祭
熱海未来音楽祭	熱海市	第 6 回熱海未来音楽祭
合同会社 so-an	東伊豆町	付トリアートセンター計画
松崎まちかど花飾り実行委員会	松崎町	松崎まちかど花飾り

【地域はじまり支援（助成金額上限 300 千円）： 13 件】

実施団体	所在地	プログラム名称
特定非営利活動法人新居まちネット	湖西市	共生の為のアートプロジェクト～地域交流・信頼関係構築を目指して～
UBUBU	浜松市	みかんの里より 15 の春プロジェクト
つくるぞうのへや	浜松市	デモクラティックスクールび～だつとつくる人々
演劇ユニット FOX WORKS	浜松市	浜名湖ぐるりめぐるクリエイションツアー
伊久美茶話クラブ NEO	島田市	オペレッタ会議～伊久美小オペレッタの継承と発展を考える会
NPO 法人静岡あたらしい学校	静岡市	あるもんで演劇 演劇×オタクタイプ 教育×オクス
HAHAHANO. LABO	静岡市	『クビ』か『ウチクビ』か
株式会社小学館集英社プロダクション	静岡市	ART FROM 【 】プロジェクト
一般財団法人静岡市国際交流協会	静岡市	夏休みインクルーシブこどもシアター
cocore	静岡市	これすご！プロジェクト～福祉分野に表現活動の価値を浸透させるプロジェクト～
三保海浜マラソン実行委員会	静岡市	第 3 回三保海浜マラソン
熱海メモリーズ	熱海市	「音楽の力で認知症予防」—地域共生社会の実現に向けて—
松崎町ふるさと絵屏風研究会	松崎町	松崎町ふるさと絵屏風プロジェクト

【本助成制度の成果】

1. 子どもや高齢者に特化した事業から、三保海浜マラソンや三畳画廊などスポーツや受刑者を対象にしたものまで、活動分野の幅が広がってきている。
2. 「熱海怪獣映画祭」をきっかけに新たな映画の制作が誕生しており、「藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会」による天狗行列の復活、湖西市ではVOCA展2025でグランプリを受賞したアーティストによる個展の開催など、各地で助成事業を母体として活動が拡大した。
3. 前年度のアートによる空き家活用パイロット事業「fresh air」（委託）からの発展で、東伊豆町の「合同会社 so-an」により、アートセンターとしての拠点が整備された。
4. 「HAHAHANO. LABO」による静岡鉄道株式会社との座談会や小学館集英社プロダクションと常葉大学による受刑者作品展覧会など、企業と協業する動きが拡大している。
5. 「三島満願芸術祭」での「しゃぎりフェスティバル実行委員会」によるしゃぎり演奏、掛川市・富士市・三島市の地域芸術祭におけるチラシ配架等の相互の広報協力、福祉関連団体の「NPO 法人こころのまま」、「HAHAHANO. LABO」、「cocore」による共同事業など、助成団体同士で分野や地域を越えた主体的な連携が生まれた。
6. 「NPO 法人こころのまま」や「NPO 法人静岡あたらしい学校」のように、他の助成金を獲得する団体がある一方で、「三島満願芸術祭」によるトークンの発行や「合同会社 so-an」のクラウドファンディングといった Web メディアを使った資金集めなど、多様な自己資金獲得の手段が広がりを見せた。

【成果報告会】

日 時	令和7年2月9日(日) 午後1時～午後4時半
会 場	アクトシティ浜松 コンgressセンター31 会議室
来 場 者	2024年度実施団体29団体、行政関係者、大学教授など
プログラム	<p><発表形式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業名称、概要、記録写真をポスターとしてデザインし、展示。 ・展示するポスターの前で実施団体による報告と、伴走支援担当者および他団体との質疑応答。 <p><講 評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅田英春（静岡文化芸術大学文化政策学部教授） ・太下義之（文化政策研究者、同志社大学経済学部教授） ・平野雅彦（アーツカウンシルしずおか特別相談員）
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・実施団体のやり取りや文化政策の第一人者による講評を通じて、活動に対する客観的、専門的な意見を共有した。 ・講評の他にコラム（アーツカウンシルしずおかウェブサイト）への寄稿を依頼し、報告会に参加していない県民への周知を図った。 ・浜松アーツ&クリエイション、浜松市美術館、静岡文化芸術大学など浜松市の文化芸術を推進する組織に助成実施団体の活動を周知し、活動への理解や共感を得るだけでなく、浜松市内でのネットワーク形成に向けた機運づくりに貢献した。 ・静岡新聞の取材が入り、新聞紙面とウェブサイトにもアーツカウンシルしずおかの事業として掲載され高い評価を得た。

（イ）文化芸術による地域振興プログラム 追加メニュー（アーツカウンシル課）

東アジア文化都市 2023 静岡県のレガシーとして、令和6年度限定で「文化芸術専門協働事業」と「文化芸術広報支援」の2つの助成メニューを追加実施した。県内で行われる文化芸術活動のうち、地域住民が参画する要素を持ち、「文化芸術による地域振興プログラム」につながり得る事業を行う26団体に対して、試行的に助成を行った。

なお、当該メニュー採択団体から7年度文化芸術による地域振興プログラムに対し4件応募があった。さらにこのメニューの継続を望む声もあがっている。

(ウ) 相談窓口の運営（アーツカウンスル課）

専門職員が随時相談に応じたほか、相談内容に応じて弁護士や税理士、中小企業診断士により組織経営、経理、法律面でも、文化芸術活動をサポートする相談窓口を運営した。また、文化芸術分野をはじめ幅広い見識をもつ平野雅彦特別相談員による相談会も原則、毎月開催した。

また、より多くの方にアーツカウンスルしずおかや相談窓口を周知するため、県内各地で、その地域で活動する団体と連携して” オープントーク「ゲストの『モヤモヤ』聞いてみませんか？」 や” 出張ArtS「アーツカウンスルしずおかと話してみませんか？」” を開催した。【相談件数：120件】

(エ) アートによる空き家活用パイロット事業「fresh air」（アーツカウンスル課）

空き家の増加が深刻化する中、不動産業の視点では価値が低いと思われる物件にも、アートの視点を導入することで、空き家の新たな価値や活用策を見出せる。発想力と行動力を持つアーティストが空き家活用の担い手となり得ることを検証するため、空き家関連事業者と連携したモデルプログラムを実施した。同時に、県内各地でアートによる空き家活用を実践する事業者とともにワーキンググループを編成し、アートの有用性について検証するとともに、県内に波及するためのガイドラインの作成に向けた意見交換を行った。

○ モデルプログラムの実施概要

前年度に行った郊外型のモデルプログラムをふまえ、商業的活用が難しい商店街の空中階にある物件を対象に、空き家活用事業者（公募型企画提案により決定）とアーティストとの協働による作品制作に取り組んだ。アーティストは約3か月にわたって空き家やその周辺地域をリサーチし、家という建物に対する価値観の変容について地理的な観点から掘り起こすとともに、一般的には瑕疵と見なされる経年劣化を建物の歴史や価値として捉える発想の転換について提案を行い、放置された物件に人々が目を向けるきっかけを創出した。

事業期間：令和6年10月～令和7年2月

実施地域	団体名	クリエイティブ人材名
三島市内	株式会社シタテ	清水 玲（しみず りょう） 美術家／香川県出身、神奈川県在住

○ ガイドライン検討ワーキング

静岡県西部・中部・東部でアートによる空き家活用を手掛けてきた事業者を集め、これまでの取組を集約し、地域に対する影響や効果など複数の観点からその効果を分析するワーキングを計4回実施した（事業期間：令和6年11月～令和7年2月）。

意見交換では、空き家活用におけるアートの有用性を伝える対象者の設定や、空き家活用の段階を細分化し、それぞれの段階でアートがどのように作用するかについて議論を進めたほか、アートの有用性の一つとして所有者等の意識に変化をもたらす点が言及された。

(オ) 超老芸術（アーツカウンシル課）

高齢になってからも独学でユニークな表現活動続ける人たちが生み出す芸術表現を「超老芸術」と名づけ、これまで発掘紹介をしている。

○ 超老芸術展 in 池田町

信州アーツカウンシルとの共同企画により、令和6年7月6日(土)～8月25日(日)の会期にて、長野県北安曇郡池田町にある北アルプス展望美術館(池田町立美術館)で7組の高齢者たちを紹介する展覧会を開催した。【来場者1,832名】

○ 超老芸術作品を通じた対話型鑑賞と絵画制作ワークショップ

「超老芸術」の発展形として、県内3箇所の高齢者施設において超老芸術の作品を題材とした対話型鑑賞や超老芸術のつくり手による絵画制作ワークショップを行うモデルプログラムを実施。超老芸術の活用や高齢者の表現活動の可能性について検証した。

これらの活動を総合することで、政策提言へとつなげる準備ができた。

実施者	期間
受託者：特定非営利活動法人レザミ・デ・ザール（沼津市） つくり手：本田照男（沼津市）	令和7年1月～2月

【対話型鑑賞】

「富士山」の絵画を眺めて、過去に登山した思い出を語るなど、高齢者の長期記憶を引き出すことができた。一方で「この絵は嫌い」というネガティブな意見も聞くことができ、高齢者が自由に自己を語る場をつくりだすことができた。

【絵画制作ワークショップ】

高齢者施設での絵画活動などでは、自尊心を損なわないように施設スタッフが援助することも多いが、今回、自身の手で丸・三角・四角という単純な図形を繰り返し描くという行為を通じて、高齢者に絵画制作の楽しさを味わってもらうことができた。

(カ) データベース化（アーツカウンシル課）

静岡県内を中心に活動するアーティストやクリエイター、文化団体、文化施設等の情報を紹介するウェブサイト上のページを運用した。

(<https://artscouncil-shizuoka.jp/creative-db/>)【登録件数 64 件】

(キ) グランシップ登録アーティスト、地域×アート マネジメントセミナー（文化事業課）

誰でも文化芸術を体験しやすくなる環境づくりを進めるため、地域で文化芸術活動を行うアーティストを活用した登録アーティスト事業、県内の公立文化施設職員等を対象にした「地域×アート マネジメントセミナー」を行った。

○ グランシップ登録アーティスト事業

対象者	実施期間	内 容
第1期 令和3年度採用 登録アーティスト 4組11人	4月～2月	・プログラム研修の実施 ・アウトリーチ ・卒業コンサート「はばたきコンサート」の実施 日時：令和7年2月23日（日） 会場：グランシップ中ホール 来場者：213人
第2期 令和5年度採用 登録アーティスト 3組8人	8月～3月	・プログラム研修の実施 ・アウトリーチ ・グランシップでのロビーコンサート

・年度末には、登録アーティスト紹介BOOKを作成。地域と登録アーティストをつなげ、活躍の場を広げるための一助を担った。

○ 地域×アート マネジメントセミナー

具体的な制作手法や関心度の高い内容について学ぶ、実践的なカリキュラムとした。令和6年度からは経験年数に応じた2コースを実施した。いずれも地域性や参加者の実情を踏まえた内容を取り扱った参加・対話形式の研修で、県内公立文化施設の結びつきの拡大・活性化も担った。

項目	実施日	参加者数
共通回	7月18日（木）	30人
入門編	8月22日（木）、9月24日（火）	27人
実践編	9月27日（金）、10月4日（金）	17人
		合計 74人

(ク) グランシップサポーター（文化事業課）

グランシップの円滑な事業運営を図るため、文化振興に関心があり、文化活動に積極的な県民の自主的な参加・参画を得る「グランシップサポーター事業」を継続すると同時に、県民がより参加しやすい仕組みとなるよう制度の見直しを行った。学生6名を含む24名が令和7年度からの活動に向けて新規サポーターに登録した。

<主な変更点>

- ・登録期間5年から1年ごとの継続意思確認とし、気軽に始められる仕組みとした。
- ・興味を持った方が参加しやすい部門として「ちょこっとサポーター」を新設した。
- ・連絡手段にLINEを活用することで、利便性の向上を図った。

【グランシップサポーターの登録状況】

(令和7年4月1日現在)

部 門	内 容	登録者数
広 報	ダイレクトメール発送、広報勉強会、企画事業準備作業等	42人
レセプション	公演実施日の受付、もぎり、資料配布、会場案内、避難誘導等	31人
撮 影	イベント・公演時の記録撮影、記録写真の整理等	21人
ちょこっと	イベントでの見守り、展示での監視等	16人
合 計		110人

イ 様々な分野との連携

(ア) 人材育成、ネットワーク化事業（アーツカウンシル課）

○ アーツカウンシル・ネットワークミーティングの開催

令和6年度第2回アーツカウンシル・ネットワークミーティング（主催：日本芸術文化振興会）を招致し、ホストとして、全国のアーツカウンシル・ネットワーク加盟団体及び地域アーツカウンシルの設置を検討中の自治体・団体関係者を迎えた。アーツカウンシルしずおかに関する情報発信及び分科会形式によるネットワークの役割について議論・発表を行った。

日 時	令和6年9月30日（月）10:30～15:00
会 場	グランシップ6階交流ホール
参加者数	61人

○ 企業連携「TECH BEAT Shizuoka2024」への出展

トークセッション1枠を企画するとともに、展示ブースにおいて、地域振興プログラム実施団体3組によるアートプロジェクトの紹介と、クリエイティブ人材派遣制度の周知を実施した。（令和6年7月25日（木）～27日（土））

また、11月8日（金）に開催されたフォローアップイベントにおいては、ゲストとしてトークセッションに登壇した後、TECH BEAT Shizuoka プロデューサーの一人である西村真里子氏とともにアート思考のワークショップを実施。企業からの参加者に向けて、スタートアップを生み出す際のアートの有効性を体験する機会を提供した。

(イ) 調査研究、県・市町・文化団体等への助言、政策提言（アーツカウンシル課）

地域の文化資源、文化活動等の情報を調査・収集するとともに、県総合計画審議会や県文化政策審議会に委員として参画、県市町の各種審査会委員など県や市町等からの依頼に基づく助言や支援、政策提言等を行った。

○ 文化政策投資効果調査

静岡県内の文化活動の実態を把握し、静岡県の文化芸術への投資が達成してきた成果を確認すると同時に課題を抽出し、今後の文化投資の方向性の提言に向けた資料としていくため、調査研究を実施。令和6年度は実態の把握を行うため、静岡県立美術館、(公財)静岡県舞台芸術センター(SPAC)及び当財団を対象として、これまでに実施された文化芸術事業に関して職員からエピソードの聞き取りを行った。

○ 高齢者による表現活動実態調査

高齢化が進んでいる現在、高齢期をより豊かなものにするために、表現活動をはじめとした余暇の充足が求められている。県内の高齢者が表現活動にどの程度取り組んでいるのかを把握し、それが高齢者自身の生きがい等にどのように結びついているのかを目的としたアンケート調査を実施した。

アンケート対象	回答数
アクティブシニア	1,053人
高齢者施設利用者	380人

アンケートの結果から、多くの高齢者が文化芸術活動で生きがいを感じており、文化芸術活動が精神的な充足感や生活の質の向上に寄与していることが分かった。

この結果をもとに政策提言へとつなげたい。

○ アーティスト等の活動環境調査

県内アーティスト等を対象に、アンケート及びヒアリングを通じて現在の活動状況や活動を維持する上でのニーズを把握するとともに、アートプロジェクトに対する関心度についての調査を行った。令和7年度は、ここで集約した意見を詳細に分析し、アーツカウンシル事業に活かすとともに、関連各所への提案へとつなげていきたい。

実施期間	令和7年2月21日(金)～3月24日(月)
アンケート対象者	静岡県内に拠点を置くアーティスト等
回答者数	484人

(ウ) 講座開催(アーツカウンシル課)

静岡県内各地でアートプロジェクトを実践している3名の「住民プロデューサー」のもとを訪れ、「地域を巻き込むため」「仲間づくりのため」「継続していくため」のアートプロジェクトの手法を探る実践型の研修講座を全3回にわたって開催した。

本講座では、座学に加えて、アートプロジェクトの現場の視察も実施しており、講師や住民プロデューサーへの質疑応答を通じて、参加者は自身の活動のヒントを得ることができた。さらには、講座受講者の中から令和7年度地域振興プログラム助成へ応募し、自力での企画を実現する人も現れた。

開催日	会場／ゲスト	参加者数
7月21日(日)	Atelier&Guest house ヌクリハウス(島田市川根町) 兒玉 絵美 (クロスメディアしまだ)	11人
10月6日(日)	ワーカズリビング三島クロケット(三島市本町) 山森 達也 (三島アートプロジェクト実行委員会)	9人
12月15日(日)	たけし文化センター連尺町(浜松市中区連尺町) 水越 雅人 (クリエイティブサポートレッツ)	8人

※講師：小川希 (Art Center Ongoing 代表)

(エ) クリエイティブ人材の派遣 (アーツカウンシル課)

文化以外の分野とアーティスト等との連携促進と、連携による創造性の触発を目的とし、県内の企業、行政組織等を主とした団体や組織に対してクリエイティブ人材を派遣した。

企業、行政組織との連携が新たな取組へとつながってきている。

派遣先	派遣人数	内容
irodori プロジェクト (浜松市の企業等の集合体)	1人	地元の企業と障害のある人たちを結びつける事業について、今後の事業の方向性を整理
静岡県中部地域局	3人	サウナツーリズム検討会への助言及び関連づけられる地域資源の例示
株式会社リビングディー第一建設	1人	富士宮市のあらたな観光資源の開発に向けて地域住民と共創

(オ) マイクロ・アート・ワーケーション (アーツカウンシル課)

クリエイティブ人材(旅人)を迎え入れ地域住民との交流を支援する団体(ホスト)と、ワーケーションを行う旅人を募集し、アーツカウンシルでマッチング等を実施した。

県内各地の13団体がホストとなり、37人の旅人が、令和6年8月25日(日)～11月3日(日)の間、原則6泊7日の日程でホストの活動エリアに滞在した。

ホストには、まちづくりに取り組むNPO法人をはじめ、市町、観光協会、企業などが参加。旅人には、美術家、ダンサー、俳優、音楽家、劇作家、写真家、アートディレクター、キュレーターなど幅広いジャンルの方が参加している。

- ・ホストは、地域案内や住民との交流会等をコーディネート
- ・旅人は、地域の魅力をWEBサイト「note」で発信

【本事業の成果】

マイクロ・アート・ワーケーション終了後もホストと旅人や旅人同士の交流が継続し、滞在したエリアの住民を撮影するプロジェクトを継続させていたり、地域を巻き込んだ展覧会や、トークイベントが開催されたりした。また、令和6年度にホストを務めた3団体から令和7年度の地域振興プログラム助成に応募があるなど県内でアートプロジェクトに着手する団体を増やす効果が出ている。さらに、本事業がきっかけとなり大型商業施設にアーツカウンシルしずおかの紹介コーナーが設置されるなど、アーティストとの触れ合いを通して影響を受けたホストが行動を起こしはじめている。

(カ) ふじのくに地域づくり創造賞（文化事業課）

- ・令和5年度に新設した「ふじのくに地域づくり創造賞」を引き続き実施した。文化芸術団体の活動支援を進めると同時に、財団が考える、社会課題への対応や地域資源を活かした創造的な活動を通して、『新しい価値を暮らしの中に』創造していくという「文化活動」の新しいあり方や理念をメッセージとして伝える機会とした。

【令和6年度受賞団体】

団体・個人部門	持塚三樹（藤枝市） ※現代美術・画家
企業部門	株式会社 BASE TRES（西伊豆町）

○ 圏域の中核施設としての活動

- ・県公立文化施設協会などの団体事務のほか、全国公立文化施設協議会関東甲信越静支部技術部会・会長館の業務を担うことを通じて、静岡県だけでなく更に広域的な連携を図り、文化芸術が生活に根差す土壌づくりを進めた。

(2) 国内外との交流

新型コロナウイルス感染症により人々の求める生活スタイルや価値観は大きく変化している。この変化に呼応して多様化したニーズに応え、グランシップを活用し学術・文化芸術への支援と国内外との交流を促進する役割を担うことが財団には求められている。

コロナ禍が明け、人の動きやグランシップの利用率が戻りつつある中で、施設利用に際しては、「あなたと世界を文化でつなぐ広場」「にぎわいと活力を生み出す広場」を2つの柱に、事業を推進した。

- ・「あなたと世界を文化でつなぐ広場」では、文化芸術の創造及び参加活動を支援し、関係機関と積極的な連携を取りながらコンベンション等を誘致することで、静岡県と世界とがつながる国際コンベンションホールとしてのグランシップの活用を進めた。
- ・「にぎわいと活力を生み出す広場」では、屋外でのイベントや、県民が気軽に来場できるイベントの誘致を積極的に行うことで、新県立図書館の整備を見据えながら、東静岡地区のにぎわいや地域住民のつながりが広まるよう、東静岡地区全体のにぎわい拠点としての役割を強化した。
- ・コロナ禍による急速なデジタル化によってウェブ会議等のオンラインコミュニケーションが急激に普及し、既存の開催方法にとらわれない催事が増えたことを踏まえ、さらに使いやすい施設となるよう、利用者の「多様なニーズに応える、安心・安全、快適な施設」運営を進めた。

ア 入館者数

入館者数…586,333人

※開館(平成11年3月)以来の入館者総数 16,871,855人(令和7年3月31日現在)

イ 主要施設の稼働実績

	大ホール	中ホール	交流ホール	会議ホール	展示ギャラリー	ホール系計
稼働実績(A)	201日	266日	226日	236日	232日	1,161日
利用可能日数(B)	287日	311日	315日	322日	325日	1,560日
稼働率(A/B)	70.0%	85.5%	71.7%	73.3%	71.4%	74.4%

※会議室、練習室等を含めた施設全体の稼働率は75.9%。

ウ 主要なコンベンション・催事開催状況

	開催日	催事名
1	4/20(土)～4/21(日)	静岡美酒祭 2024
2	4/26(金)～27(土)	日本心血管インターベンション治療学会 第50回東海北陸地方会
3	4/28(日)、8/25(日)	2024年中部日本ダンス競技静岡県大会
4	5/25(土)	JMK 静岡県歌謡選手権大会
5	5/30(木)～5/31(金)	QCサークル東海支部静岡地区 さつき大会
6	6/1(土)	第37回静岡県作業療法学会
7	6/22(土)～6/23(日)	第27回静岡県理学療法学会大会
8	6/22(土)	第10回静岡県高等学校軽音楽大会
9	6/23(日)	マルシェ@グランシップ
10	6/30(日)	第15回静岡県消化器内視鏡技師会
11	7/14(日)	2024 ダンススポーツグランプリ in 静岡
12	7/25(木)～7/27(土)	TECH BEAT Shizuoka 2024
13	8/18(日)	静岡県腎友会第16回定期大会
14	8/24(土)～8/25(日)	第29回日本難病看護学会学術集会
15	8/28(水)～8/29(木)	第36回バイオメディカル分析科学シンポジウム
16	8/31(土)	第14回全日本高等学校チームダンス選手権大会
17	9/7(土)	JMK 静岡県歌謡選手権大会
18	9/14(土)	静岡県外科医会 第250回集談会
19	9/15(日)	静岡県高等学校総合文化祭
20	9/23(金)～9/25(日)	日本放射化学会 第68回討論会
21	9/28(土)～9/29(日)他	ノジマTリーグ 2023-2024 シーズン
22	9/29(日)	第40回 静岡接骨学会
23	10/4(金)～10/5(土)	第6回 Sing Live 研究会
24	10/6(日)	SHIZUOKA ダンスコレクション in 2024
25	10/13(日)～10/14(月)	小原流静岡支部創立90周年記念花展
26	10/18(金)～10/19(土)	民間放送教育協会 テレビのチカラ 中部・北陸・関西・中国地区大会 2024 静岡
27	10/23(水)～10/29(火)	青山行不尽～唐詩ロード日中芸術家作品特別展覧会 in 静岡
28	10/25(金)	QCサークル東海支部静岡地区 秋桜大会
29	10/27(日)	ふじのくに芸術祭 邦楽演奏会
30	11/2(土)	静岡県高等学校文化連盟 器楽・管弦楽専門部 第28回演奏会
31	11/2(土)～11/3(日)	第52回全青司しずおか全国研修会

	開催日	催事名
32	11/6(水)～11/10(日)	第 72 回静岡県高等学校美術・工芸展
33	11/7(木)～11/8(金)	静岡のための本気経営カンファレンス
34	11/13(水)	東海税理士会主催 税理士の業務のデジタルフォーラム 2024
35	11/13(水)	新技術交流イベント in Shizuoka 2024
36	11/15(金)～11/18(月)	第 50 回全国語学教育学会年次国際大会/教材展示会
37	11/24(土)	ふじのくに芸術祭 合唱コンクール
38	11/26(火)～11/28(木)	電子情報通信学会電磁界理論研究会
39	11/27(水)～11/29(金)	第 2 回世界マリンステーション会議
40	12/7(土)～12/8(日)	大学サミット・ヒガナンフェスティバル
41	12/19(木)～12/20(金)	第 34 回日本循環薬理学会学術集会
42	12/21(土)	静岡県高等学校文化連盟 軽音楽専門部 第 9 回静岡県高等学校軽音楽大会
43	12/5(木)～12/9(月)	第 33 回愛護ギャラリー展
44	1/3(金)	2025 静岡市 二十歳の記念式典
45	1/6(月)～1/7(火)	生体運動合同班会議 2025
46	1/8(水)～1/9(木)	第 7 回医薬品毒性機序研究会
47	1/10(金)	令和 7 年 静岡県警察 年頭視閲式
48	1/11(土)	第 13 回静岡県看護学会
49	1/16(金)	第 6604 回 Q C サークル静岡地区「新春大会」
50	1/24(金)～1/27(月)	静岡県特別支援学校高等部 第 35 回合同作品展
51	1/25(土)	静岡県防衛協会主催 第 44 回 静岡音楽祭
52	2/11(火)	SERENDIPITY SHIZUOKA TANKYU COLLECTION
53	2/14(金)～2/16(日)	Shizuoka-Products Forum 2025
54	2/15(土)	令和 7 年静岡県柑橘生産者大会
55	2/28(金)	2025 年 3・1 ビキニデー日本原水協 全国集会
56	3/7(金)～3/9(日)	おいもフェス SHIZUOKA 2025
57	3/8(土)～3/9(日)	南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年記念シンポジウム
58	3/22(土)	『北斎とジャポニスムコンサート』 北斎の影響を受けた印象派の作曲家たちから世界最新作「北斎オペラ」まで
59	3/29(土)	第 22 回 日本インターベンショナルネフロロジー学会

エ 催事開催支援サービス実績

メニュー	サービスの内容	実績
飲食	弁当、ケータリング、パーティー	受注件数 1,532 件 受注額 66,651,651 円
テクニカル	音響照明、看板、生花、会場設営	
清掃	レイアウト転換、ごみ処理	
警備	雑踏・駐車場警備	

① あなたと世界を文化でつなぐ広場（利用サービス課）

グランシップは開館当初から、国内外の交流を促す拠点として、静岡県民に限定されない多くの方々が来館し、静岡県の魅力を発信する役割を担っている。コロナ禍も明け大規模催

事や学会開催が増えている中で、今年度は、県との協働を推進し、県の施策の一翼を担う事で国内外へ静岡県をPRした。

- ・国際会議や国内学会等の開催を誘致するため、静岡県、大規模コンベンション共同誘致協定を結んでいるツインメッセ静岡を中心とした県内各施設及び（公財）するが企画観光局と積極的に連携し、公共団体だけでなく、学校法人や静岡県内の県域団体の主催する団体、過去にグランシップで国際大会・国内大会を実施した主催者・団体やコンベンション企画運営事業者（PCO）、プロモーターなどに対し、定期的な情報収集や営業活動を行った。

【主な国際会議・国内学会】

開催日	催事名	主催	参加人数
8/24(土)～25(日)	第29回日本難病看護学会学術集会	(一社)日本難病看護学会	約500人
11/27(水)～29(金)	第2回世界マリンステーション会議	第2回世界マリンステーション会議実行委員会	約100人

【主な全国大会】

開催日	催事名	主催	参加人数
11/2(土)～3(日)	第52回全青司しずおか全国研修会	全国青年司法書士協議会	約750人
11/15(金)～18(月)	第50回全国語学教育学会年次国際大会	(特非)全国語学教育学会	約1,800人

- ・引き続きニーズが高まっている映像撮影のロケーションとしてのグランシップ施設の提供を行った。

※ 実績：映画撮影（撮影本番5日間） 1件、ミュージックビデオ撮影 1件

- ・開館以来様々な文化活動の場として選ばれるグランシップにおいて、近年増えている撮影会、ボードゲームやDJイベントなどの「推し活」「趣味活」を目的とした利用者から意見・要望を聞き取り、仲間募集用掲示板を設置するなど趣味での利用を後押しした。

② にぎわいと活力を生み出す広場（総務課）（利用サービス課）

新県立中央図書館や静岡市によるアリーナ建設など、東静岡地区に新たなにぎわいにつながる計画が萌芽する中で、財団の使命である「人々が“集う・交流する”ことを促進する」のもと、東静岡駅エリアのにぎわいを創出し、これまでとは異なる新たな客層の方々に活力を与えるため、以下の項目を推進した。

- ・東静岡周辺のにぎわいに寄与するべく、県が実施する「東静岡駅県有地活用実証実験」や地元自治会の開催するマルシェ等の主催者に働きかけた結果、屋外ひろばを活用したイベントを開催した。

【主なイベント】

開催日	催事名	参加人数
12/7(土)～8(日)	大学サミット/ヒガナンフェスティバル	約5,000人
3/7(金)～9(日)	おいもフェス SHIZUOKA 2025	約12,000人

- ・新県立図書館完成を見据え、静岡県や関係団体との会議に参加し、同じ東静岡地区のにぎわいと活力の中心となる施設として、今後の事業連携などの計画づくりに着手した。

③ 多様なニーズに応える、安心・安全、快適な施設（総務課）（利用サービス課）

より多くの人々にグランシップを利用してもらうためには、公立文化施設として観客や利用者が心から安心・安全に利用できるものでなければならないという前提に加え、多様化したニーズに応じていく必要がある。また SDGs の観点からは、施設運営において持続可能な社会の実現に貢献していくことが求められている。これらを踏まえ、次のことを実施した。

- ・コンベンションのバーチャル化など、新しいニーズに対応するため、有料の高速光回線の貸出を推進することで、同時配信やウェビナー等オンラインと会場の参加者を融合する催事を誘致し、開催した。

【主なハイブリッド学会】 *当館光回線利用

開催日	催事名
11/26(火)～11/28(木)	電子情報通信学会電磁界理論研究会
3/29(土)	第22回 日本インターベンショナルネフロジー学会

- ・予約システムの更新に合わせたウェブ予約機能の拡充により、発送作業に係る費用の削減や、キャッシュレス支払いにより、利用者の利便性が向上した。

(利用実績：オンライン予約件数 3,215 件、オンライン収納金額 14,454 千円)

- ・県民が学術・文化芸術を創造し、発信する場として、会議ホール、交流ホール、会議室等、多様な施設を有する当館の特性を生かし、催事に合わせた最適な施設の組合せや利用方法を提案することで、その活動を側面から支援した。
- ・グランシップ常駐委託業者^(※)と協働して、主催者に代わりケータリングや清掃、臨時警備等の業務をワンストップサービスで受託する開催支援サービスを推進した。

(※) 財団から警備、清掃、設備、舞台関連業務等を受託し、グランシップに常駐している委託業者

- ・県民に施設を身近なものとして認識してもらうため、施設見学の依頼への対応のほか、将来の利用者となる小中学生等の社会科見学や職場体験を積極的に受け入れた。

(施設見学の応募件数 6 件、見学者延べ人数 192 人)

【職場体験の実施状況】

実施日	団体名 (人数)	職場体験の概要
2/18～2/20	静岡市立静岡東中学校 (3人)	自主事業の企画業務体験、舞台設営・照明・音響操作等体験、その他各課・各常駐業者の業務体験

- ・防災訓練においては、自衛消防隊の役割や訓練内容の見直しを図り、より実践的な訓練を行うことで、危機管理の体制強化を実施した。
- ・県や施設管理、警備、清掃、舞台技術の委託業者と連携して適切な管理・運営を図るとともに、適宜適切に仕様の見直しを継続して進めた。また、県が策定した中期維持保全計画と連携して、計画的な設備更新の実施、故障箇所の迅速な修繕に努めた。

- ・電気・ガス使用を最適化し、環境負荷低減とコスト削減を進めた。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）への取組として、省エネルギーを推進し環境に与える負荷を低減するため、エネルギー管理員の主導による効率的なエネルギー運用に取り組んだ。

【エネルギー使用実績】

区分	H25 (a)	R6 (b)	R6 (b-a)
電 気	6,018,672 kwh	5,377,650 kwh	▲641,022 kwh
ガ ス	788,763 m ³	674,024 m ³	▲114,729 m ³
エネルギー総量	94,250 GJ	83,133 GJ	▲11,117 GJ

※ H25 は静岡県地球温暖化対策実行計画の開始基準年

- ・毎月1回サービス向上委員会を開催し、グランシップ常駐委託業者との情報共有を密にすることで、適切な管理・運営を図った。

（3）財団経営の基盤強化

社会環境が大きく変化する中、新しい時代を見据え、静岡県の文化振興の牽引者として、文化の力で県民生活の向上と活力ある社会づくりに寄与していくためには、財団自体が長期的に安定的な運営を実現する力を培い続けなければならない。これを実現するために、経営の安定化と、個々の職員の能力育成及び職員が財団の使命達成のために注力できる環境づくりを進めた。

① 持続的な活動を支える経営の安定化

先行きを見通すことが困難な現代において、社会環境の急速な変化に迅速に対応していけるよう、次の事項に取り組むことにより財団経営の安定化を図った。

ア 安定的な収入の確保（文化事業課）（利用サービス課）

- ・国際会議や国内学会等の開催を誘致するため、関係機関と積極的に連携し、公共団体、学校法人、地域団体の主催する団体、過去にグランシップで国際大会・国内大会を実施した主催者・団体やコンベンション企画運営事業者（PCO）、プロモーターなどに対し、定期的な情報収集や営業活動を行った。
- ・様々な文化活動に県民が触れる機会を増やすため、訪問営業したメディア及びプロモーターからの要望をくみ取ることで、新たな催事の利用を促進した。
- ・グランシップ全館に導入した高速通信回線を活用し、コンベンションのバーチャル化など新しいニーズに対応したハイブリッド学会等のコンベンションを誘致した。
- ・公演内容やターゲットに合った各種媒体を複合的に活用するとともに、広くスピーディーに多様な情報発信ができるウェブを中心とした広報活動を展開することにより、チケット収益の確保を図った。
- ・文化庁、日本芸術文化振興会、（一社）地域創造の補助金を獲得し、事業実施のための財源確保に努めた。
- ・「中高生鑑賞プラン・交通費支援」制度や、原則1,000円の「子ども・学生チケット」、福祉団体と連携したひとり親家庭等への招待事業を継続的に実施するため、「グランシップ

子どもたちのための文化芸術プロジェクト」を開始し、県内企業から協賛を頂いた。

イ 経費の節減（総務課）

- ・ グランシップ企画事業等の見直しや館内の省エネの徹底により、経費の削減を行った。
- ・ 常に財団の財務状況を把握し、適時適切な対応ができる体制を維持するため、毎月1回経営企画会議を開催し、各月の予算執行状況や光熱水費の推移を確認するとともに、月次決算及び上半期終了時の中間決算を実施した。
- ・ 勤怠管理、会計処理、旅行命令等のシステムの運用により、総務事務の効率化を図った。
- ・ 各委託業者との調整を行い、業務の効率化を図った。

ウ 経営指標の設定（総務課）

- ・ 常に健全な財務状況を維持する体制を整えるために有用な公益財団法人特有の経営指標に関して、他県の事例等について調査を行った。

② 新しい社会環境での働き方

時代の変化に対応する安定した財団経営には、それを支える人材の確保と職員の育成だけでなく、さらに組織力の向上が必要となる。これらを実現し、一致協力して業務を遂行する専門化集団を目指し、以下の取組を実施した。

ア 職員が能力を発揮できる環境づくり（総務課）

- ・ 各課におけるグループ制の運用及びグループマネージャーの配置により、組織内の情報共有や進捗管理を徹底した。
- ・ キャリアパス制度の運用では、財団の将来を担う幹部職員と各業務に精通した職員という2つのコースを設定し、各職員が目指すキャリア目標への道筋を明確に示した。
- ・ 各事業の情報や外部団体との連携等、財団を取り巻く状況について内部への周知に努めるとともに、チャットツール等を活用した誰もが情報にアクセスできるオープンな意思疎通の手法を推進し、財団内のコミュニケーション活性化を図った。
- ・ 17時15分以降の時間帯について、最低限の人数で効率的に施設運営ができるよう改善し、不必要な時間外勤務の抑制や勤務間インターバルの確保に努めた。
- ・ 令和5年度から運用開始した在宅勤務制度は、職員の都合によるもののほか、台風に伴う交通機関の長期間運休により出勤できない場合においても活用された。
- ・ 職員それぞれのライフスタイルに応じた働き方ができるよう、勤務時間を5区分から7区分に細分化した。
- ・ 育児・介護休業法の令和7年度改正施行に対応して、規程等の見直しを行った。
- ・ 労働安全衛生法に基づく職員の定期健康診断やストレスチェックを継続して実施した。

イ 高い資質を有する人材の確保と育成（総務課）

- ・ 財団全体の業務や職種を理解、体験できるインターンシップを実施した。

項目	開催日	参加人数（延べ）
夏季インターンシップ	7/7～9/28のうち14日間	10人
冬季インターンシップ(文化事業課)	1/18～19	6人
(総務課)	2/12	3人

- ・優秀な新卒者を獲得するため、民間企業の採用活動とほぼ同時期に募集・試験を行った。募集にあたっては、グランシップ会議室での対面・Webのハイブリッド会議で職場説明会を開催したほか、静岡県立大学・常葉大学の2校を訪問して採用説明会を実施した。

(採用予定者数：1名／応募者数：21名)

- ・人事評価制度を継続し、適切な目標設定と目標達成に向けた管理職の支援及びフィードバックによって、職員の意欲及び資質の向上を図った。
- ・新規入職する職員の職場定着と組織の成長を図るため、新規採用職員に対して財団の先輩職員をメンターとして配置して個別支援を行うメンター制度の運用を開始した。
- ・グランシップ休館日には、年間計画に基づく職員研修を実施した。「公益財団法人の経営学」をテーマとした外部有識者による研修のほか、舞台関連の委託業者による舞台技術研修、財団の財務状況の概要や業務に関連する法制度の改正（例：フリーランス法）等について財団職員が内部講師として企画した各種研修を実施し、財団職員のスキルアップを図った。
- ・新任管理職やベテランの中堅職員、新卒等職員を対象として外部の個別研修を活用し、組織内で各ポジションに求められる役割の理解を促進した。
- ・その他、職員が最新の専門知識、技術を習得する機会を確保するため、全国公立文化施設会主催のアートマネジメント研修や、静岡県公立文化施設協議会の各種研修を活用した。

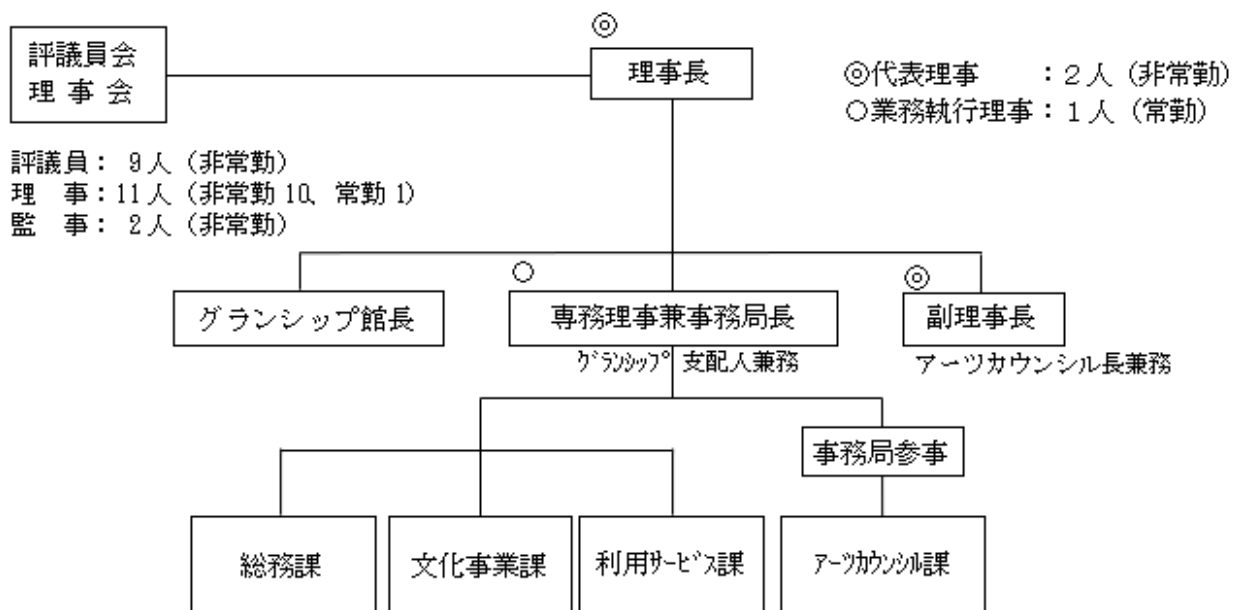
ウ 育児・介護休業制度の運用（総務課）

- ・育児・介護休業制度の活用職員数は下記のとおりである。

	育児休業	短時間勤務
対象職員数	なし	4人

(4) 組織体制

(令和7年3月31日現在)



【職員内訳 (人)】

	総務課	文化事業課	利用サービス課	アーツカウンシル課	計
正規職員	5	7	5	1	18
県派遣職員	2	0	2	1	5
契約職員	3	4	2	7	16
非常勤契約職員	0	0	0	0	0
委託職員	0	2	0	0	2
人材派遣職員	1	2	1	1	5
計	11	15	10	10	46

※休職中の職員を含む

(5) その他の法人運営

【理事会・評議員会等の開催状況】

月日	会議	議案	採否状況
5/16(木)	監事監査	・令和5年度事業報告 ・令和5年度決算及び財産目録	—
5/27(月)	第1回理事会	・令和5年度事業報告 ・令和5年度決算及び財産目録 ・定時評議員会の開催	出席者の全会一致による可決
6/13(木)	定時評議員会	・令和5年度決算及び財産目録	出席者の全会一致による可決
		・辞任に伴う評議員の選任	候補者一人毎採決、全員可決
12/2(月)	第2回理事会	・令和6年度収支予算の補正 ・諸規程の一部改正 ・第2回評議員会の開催	出席者の全会一致による可決

月 日	会 議	議 案	採否状況
R7/ 1/14(火)	第 2 回 評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度収支予算の補正 公益財団法人静岡県文化財団役員 の報酬等に関する規程の一部改正 	出席者の全会一致による 可決
3/7(金)	第 3 回 理 事 会	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度事業計画 令和7年度予算 令和7年度資金運用計画 役員等のために締結される保険 契約 諸規程の一部改正 第3回評議員会の開催 	出席者の全会一致による 可決
3/25(火)	第 3 回 評議員会	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度事業計画 令和7年度予算 公益財団法人静岡県文化財団評議 員等選考委員会設置要綱の制定及 び委員の選任 	出席者の全会一致による 可決

【許認可及び登記の状況】

登記日	内 容
令和6年9月24日	評議員の辞任・就任登記

※許認可はなし

【基本財産の造成状況】

令和7年3月31日現在

	基本財産造成額	備 考
県 出 捐 金	600,000 千円 300,000 千円	S59年度～61年度 H4.4.1文化振興基金取崩額 251,100 千円 県上乗せ分 48,900 千円
小 計	900,000 千円	
市 町 村 出 捐 金	100,000 千円	S59年度～S61年度
寄 附 金 等	1,710 千円	個人寄附 その他
基本財産造成額合計	1,001,710 千円	
基本財産時価評価額	953,930 千円	R6年度末 新会計基準による